

事業成果報告書

1 事業名称

本市における高校教育へのイノベーション教育普及推進事業

2 事業実施主体

- (1) 住 所 宮崎市錦町1番10号 KITENビル7階
- (2) 団体名称 宮崎商工会議所
- (3) 代表者職氏名 会頭 米良 充典
- (4) 電話番号 0985-22-2161
- (5) 担当者 広域振興部 前田 康臣、時任 将彦

3 事業の目的

市内高校生に対して、イノベーション教育を通じて地域資源を活用したアイデアを生み出す力を養うとともに、地域への愛着や誇りが持てる機会を創出し、「地域及び企業ニーズに対応した人材の育成」や「地元（企業）への関心・定着意欲の向上」等に寄与することを目的とする。

上記に寄与するイノベーション教育の普及を推進するため、市内高校へのイノベーション教育の導入に向けた施策の実施及び教職員に対するイノベーション教育の認知・理解を高める活動を行うことで、今後の本市における高校教育へのイノベーション教育の普及・発展へと繋げる。

4 事業の具体的内容

(1) イノベーション教育の導入施策（対象：高校生）

実施内容：「鵬イノベーションコンテスト・メンタリング授業」

宮崎市内の企業・団体等と連携し、地域活性のための課題を複眼的に見つめ直し自ら解決策を考えることで郷土（地元企業等含む）に対する誇りと愛着を育成することを目的として、宮崎県立宮崎南高等学校が実施する「鵬イノベーションコンテスト」を軸に地域活性の課題解決に取り組む高校生へ「メンタリング授業」及びコンテストにおける成果発表審査を行い、地域活性のやりがいや郷土を担う使命感の育成に寄与した。

実施日時：第一回 令和2年10月 2日（金） 14時45分～15時55分

第二回 令和2年10月16日（金） 14時45分～15時55分

第三回 令和2年11月13日（金） 14時45分～15時55分

実施会場：宮崎県立宮崎南高等学校 情報室（ZOOMを活用し実施）

参加人数：計89名（第一回：29名、第二回：28名、第三回：32名）

講師：一般社団法人 i.club 代表理事 小川 悠氏
ディレクター 神田 大樹氏

(2) イノベーション教育の認知・理解の促進（対象：教職員）

実施内容：「イノベーション教育オンライン研修会」

「鵬イノベーションコンテスト」等の市内各高等学校が実施する「探究授業（キャリア教育授業）」の取組を事例とし、教職員を対象にディスカッションやメンタリングを交えながらイノベーション教育への理解を深めるオンライン研修プログラムを3回に亘り実施した。

実施日時：第一回 令和3年 1月21日（木） 14時00分～15時00分

第二回 令和3年 2月10日（水） 14時00分～15時00分

第三回 令和3年 2月17日（水） 14時00分～15時00分

実施会場：オンライン（ZOOMを活用し実施）

参加人数：計14名（参加校：7校）

講師：一般社団法人 i.club 代表理事 小川 悠氏
ディレクター 神田 大樹氏

5 事業の効果

(1) イノベーション教育の導入施策（対象：高校生）

■鵬イノベーションコンテスト・メンタリング授業

鵬イノベーションコンテスト開催に向けて、分野別課題研究に取り組む第一学年生徒の希望者を対象に、イノベーション教育の観点からアイデア創出の作法やアイデアの磨き上げを行う「メンタリング授業」を実施した。

受講した生徒の大半が地域・企業活性化のための課題研究について悩みを持っていた状態であったが、メンタリング（アドバイス）を通じて95%の生徒が地域課題解決及びアイデアの創出等に対して「参考になった」という反応が得られた。

メンタリング授業実施後に開催された「鵬イノベーションコンテスト」では、生徒が取り組んできた分野別課題研究成果内容について、イノベーション教育及び地域・企業ニーズに則しているか等の観点から審査を行った。

今回の取組（メンタリング授業・鵬イノベーションコンテスト）により、全体の57%の生徒が「地元地域・企業に対して心境の変化があった」と回答し、うち93%の生徒より「関心が高まった」との回答が得られたため、「地元（企業）への関心・定着意欲の向上」等の寄与に繋がったと考える。

(2) イノベーション教育の認知・理解の促進（対象：教職員）

■イノベーション教育オンライン研修会

本市における高校教育において、人々の行動や習慣・価値観を変化させる新しいアイデアを創出・普及させ、新しい未来を創る「イノベーション教育」を通じて、地域及び企業ニーズに対応した人材育成や地元への関心・定着意欲の向上を図るべく、高校教職員を対象にイノベーション教育の認知・理解を高めるための「オンライン研修会」を実施した。

今回の取組を通じて、90%の受講者が「イノベーション教育の認知・理解が高まった」と回答し、「今回の研修でイノベーション教育と探究の相性が良いことが分かった」や「探究について他校の先生達とディスカッションをオンライン上で実施できて良かった」等の前向きな意見が得られたため、今後の本市における高校教育へのイノベーション教育の普及・発展に寄与できたと考える。

上記（1）（2）については本取組を通じて地元志向の変化やイノベーション教育への理解促進に繋がったかどうか等を検証すべく、学生・教職員を対象にアンケートを実施した。内容については「別添資料」参照。

6 事業実施の様子

(1) イノベーション教育の導入施策（鵬イノベーションコンテスト・メンタリング授業）



(2) イノベーション教育の認知・理解の促進 (イノベーション教育オンライン研修会)



以 上

令和2年度 宮崎市地元とつながる人材育成支援事業

「本市における高校教育へのイノベーション教育普及推進事業」

【別添資料（アンケート結果）】

宮崎商工会議所 広域振興部

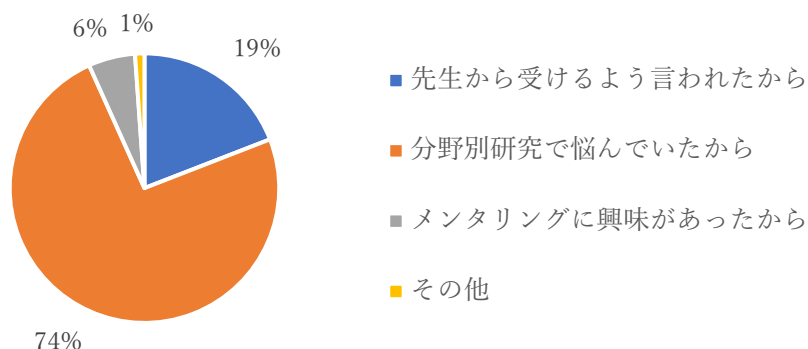
(1) イノベーション教育の導入施策（対象：高校生）

鵬イノベーションコンテスト・メンタリング授業

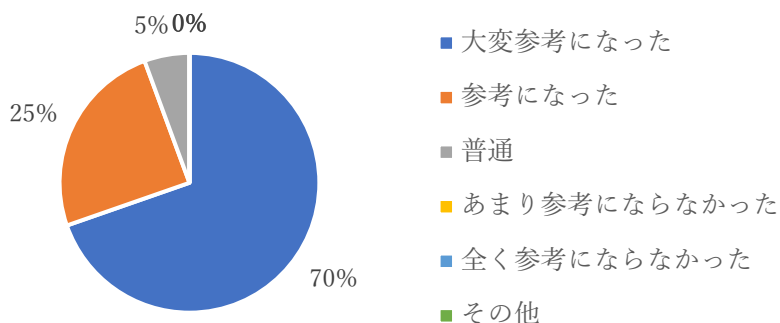
- ・第一回 令和2年10月 2日（金）14時45分～15時55分（29人）
- ・第二回 令和2年10月16日（金）14時45分～15時55分（28人）
- ・第三回 令和2年11月13日（金）14時45分～15時55分（32人）

【メンタリング授業について】

Q1. メンタリングを受けようと思ったキッカケ



Q2. メンタリングの満足度



Q3. 今回のメンタリングの感想（抜粋）

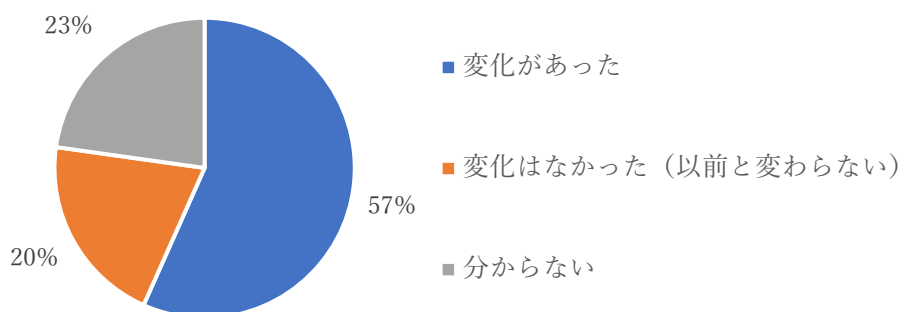
- ◆新しい考え方の方向性を見出すことができ、大変勉強になった。
- ◆自分達の研究に考えられる要素が増えた。もっと面白い内容にできると思う。
- ◆今の自分達の案が大人に対してどう受け入れられるのかがとても良く分かり、良い機会だった。
- ◆研究で悩んでいる理由が現状と課題が広すぎること自分達では気付いていなかったもので、それを聞くことができとても参考になりました。
- ◆改めて考えさせられとても良い機会になりました。また、アドバイスのおかげで新しい考えが浮かんだりしました。

鵬イノベーションコンテスト分野別成果発表

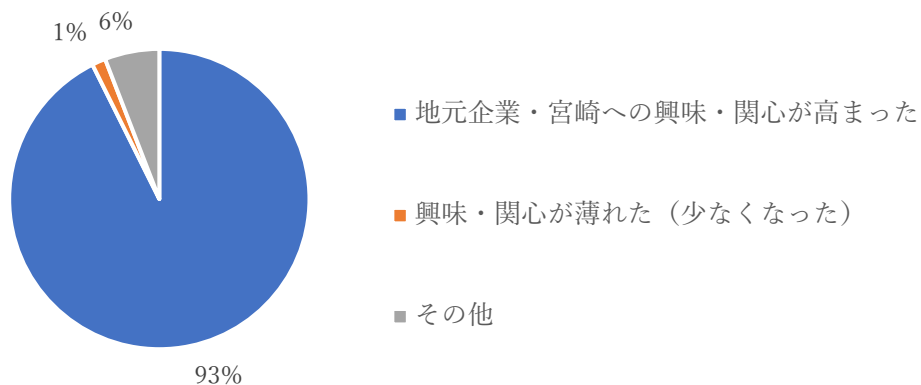
・令和2年12月18日（金）12時50分～16時10分（360人）

【今回の取組を通じての地元企業・宮崎への関心度について】

Q1. 今回の取組を通じての地元企業・宮崎への心境の変化



Q2. 具体的にどのような変化であったか



Q3. その他意見（抜粋）

- ◆今まで知らなかった宮崎の状況を知ることができた。
- ◆宮崎をより活性化させなければ今の風景が見られなくなるかもしれないということに危機感を感じた。
- ◆今まで知らなかった宮崎の特産品や取組を知れた。
- ◆宮崎は何もない所だと思っていたが、意外と良い県にしようと色々な事をしているのだなあと思いました。

【地元志向の変化について】

■事業前

現在、就職先として考えている場所はどこか。

	全体	メンタリング受講		その他	
		県内・市内 出身者	県外出身者	県内・市内 出身者	県外出身者
①宮崎市内	32	3	1	27	1
②宮崎県内	107	31	1	73	2
③宮崎県外	221	46	7	153	15
合計	360	80	9	253	18
		89		271	

■事業後

現在、就職先として考えている場所はどこか。

	全体	メンタリング受講		その他	
		県内・市内 出身者	県外出身者	県内・市内 出身者	県外出身者
①宮崎市内	50	23	4	22	1
②宮崎県内	135	37	3	91	4
③宮崎県外	175	20	2	140	13
合計	360	80	9	253	18
		89		271	

【事業の効果について】

地元志向の変化については上記アンケート結果のとおり、今回の取組により地元地域・企業への心境の変化があった生徒のうち、93%が「関心が高まった」と回答し、宮崎県内（①含む）を就職先として検討していた学生の割合（38.6%）が、事業実施後には10%以上増加（51.3%）となっていたことから、今回実施した一連の取組が「地元（企業）への関心・定着意欲の向上」等に寄与できたものと思われる。

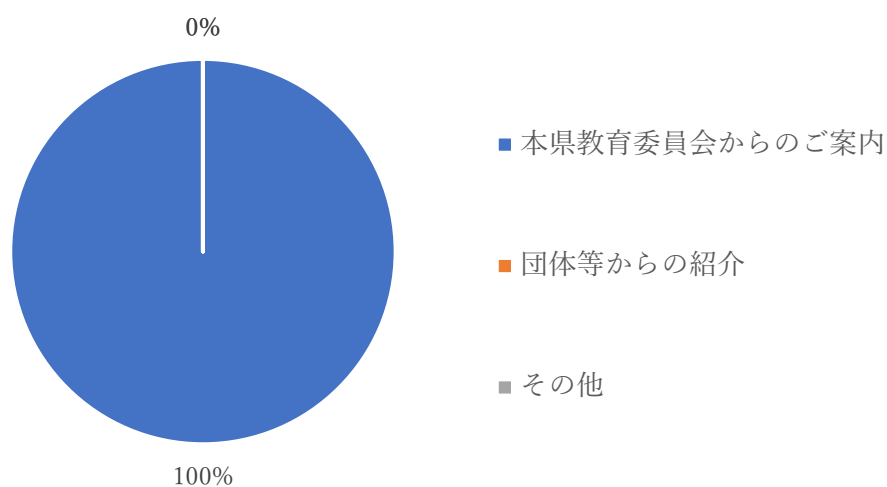
(2) イノベーション教育の認知・理解の促進（対象：教職員）

イノベーション教育オンライン研修会

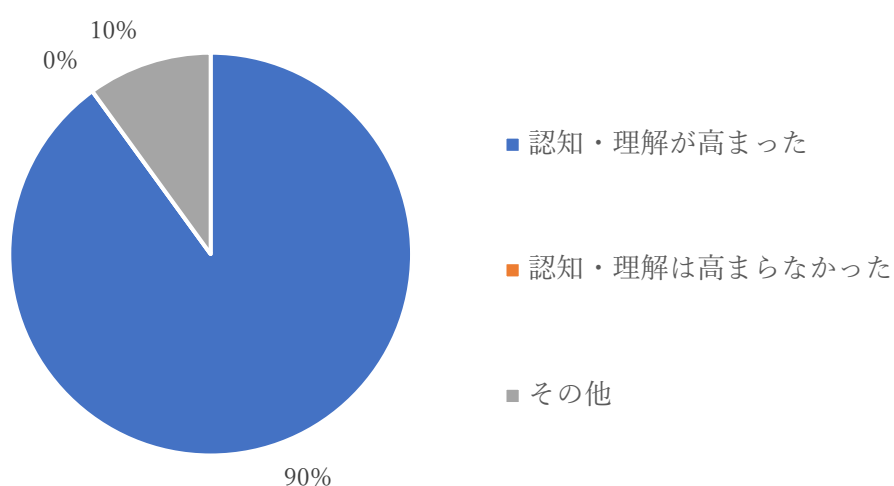
- ・第一回 令和3年1月21日（木）14時00分～15時00分
- ・第二回 令和3年2月10日（水）14時00分～15時00分
- ・第三回 令和3年2月17日（水）14時00分～15時00分（計14名：市内等7校）

【研修会内容について】

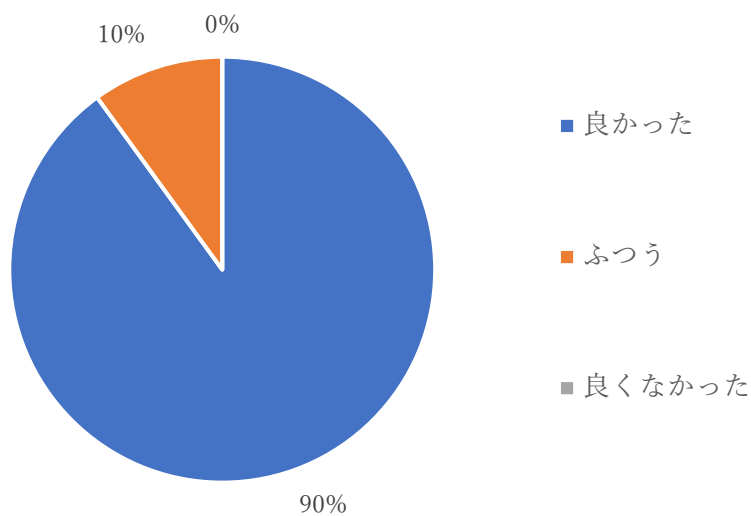
Q1. 研修会を知った経緯



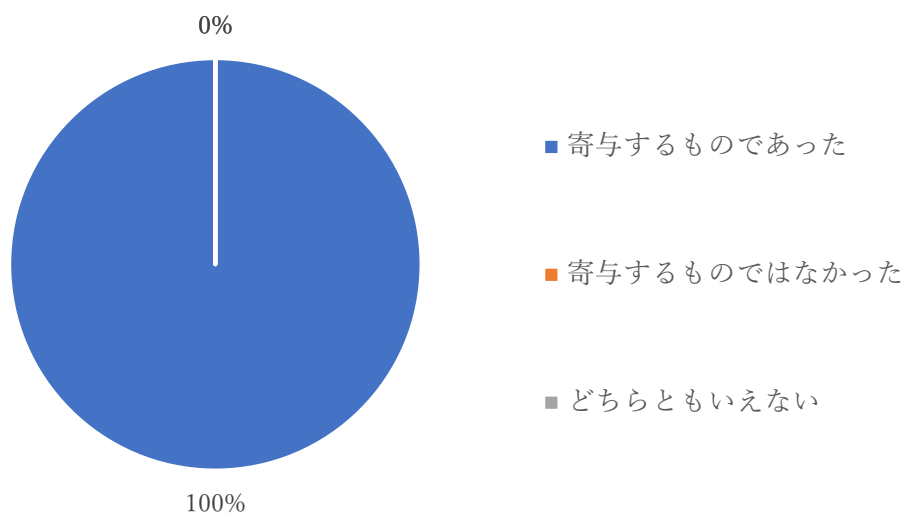
Q2. 「イノベーション教育」の認知・理解について



Q3. 「イノベーション教育」の認知・理解について



Q4. 研修会が「総合的な探究取組」の向上等に寄与したか



Q5. その他 (Q2~4の理由、感想 等)

◆小川さん(講師)とのつながりはあるものの、無料の相談を気軽にもちかけるのは恐縮するので、このような機会は大変貴重に感じる。

◆今回の研修ではイノベーション教育と「探究」の相性がよいことが分かった。専門高校においてはその専門性の故に制約があると感じており、専門高校においては専門

性から自由になることが(探究の中身の)ステップアップの鍵ではないかと感じている。イノベーション教育は理系と相性がよい印象があり、校内に理系のクラスがある普通科は理系と文系の生徒が相互に影響し合い、いい形で探究活動がブラッシュアップされるのではないか。商業高校ではその所を外部との連携を進めることで補う必要があると考えている。

◆本研修会の満足度について「総合的な探究の時間」についてのディスカッションを他校の先生とオンラインでできることが分かった点は意義がある。学校任せではこのようなディスカッションがスタートしにくいだろう。通常なら県教委が主催するところと考えるが、今回 iclub と商工会議所が主催してくれたので、少人数で形式張らずに意見交換することができたと感じている。もっとぶっちゃけ話をしたかったというのが感想です。

◆現在行っている課題研究(探究の授業)と SDGs との絡め方や指導の仕方など、非常に参考になるお話が聞けたので良かったです。少しずつでもより良い方向に改革していけたらと思いました。

【事業の効果について】

今回の取組を通じて、90%の受講者が「イノベーション教育の認知・理解が高まった」と回答し、全ての受講者より「本研修会が総合的探究取組(授業)の向上に寄与した」という回答を得られた。その他意見として、「今回の研修でイノベーション教育と探究の相性が良いことが分かった」や「探究について他校の先生達とディスカッションをオンライン上で実施できて良かった」等の前向きな意見が得られたため、今後の本市における高校教育へのイノベーション教育の普及・発展に寄与できたものと思われる。